

校長室だより

みなみ風



令和3年12月23日

No.8

本当に大事なものは

本日、冬休みを迎える会で、次のことを話しました。

明日から2週間の冬休みが始まります。24日(金)はクリスマスイブです。クリスマスといえば、プレゼントやケーキを思い浮かべますが、忘れてならないのは、サンタクロースです。今日は、サンタクロースに関わる話をします。

今から120年ほど前の1897年、アメリカはニューヨークにあるサン新聞社に8才の少女から次のような手紙が届きました。



「友だちが、サンタクロースはいないと言うのです。パパは『わからないことはサン新聞』と言いました。本当のことを教えてください。サンタクロースはいるのでしょうか？ ヴァージニア・オハンロン」

この問いかけにサン新聞社は、社説の欄に次のような回答をしました。

「ヴァージニア、それは友だちの方が間違っているよ。きっと、何でも疑いたがる年頃で、見たことがないと信じられないんだね。自分のわかることだけが、全部だと思ってるんだらうね。…(略)……実はね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだよ。愛とか、思いやりとか、いたわりとかがちゃんとあるように、サンタクロースもちゃんといるし、そういうものが身の回りにあふれているおかげで、人の毎日は癒やされたり潤ったりするんだよ。…(略)……そもそもサンタクロースは人の目に見えないものだし、それでサンタクロースがいなくてことにもならない。ほんとの本当っていうのは、子供にも大人にも、誰の目にも見えないものなんだよ。……(以下省略)」

サンタクロースはいるんだ 作：ニューヨーク・サン新聞「社説」

訳：大久保ゆう 青空文庫より一部抜粋

人を愛する心、また大切にしようとする思いやり、そして今回の話に出てきたサンタクロースなど、私たちの周りには「目には見えない大切なもの」があります。みなさんにとって「目には見えない大切なもの」は何でしょうか。クリスマスを前に、ぜひ心の中で考えてみてください。

それではよい冬休みを。話を終わります。



本年も、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきましてありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様、よいお年をお迎えください。